

7. 平成 22 年度広島県病害虫・雑草防除基準に採用した 果樹用殺菌殺虫剤の防除効果

1. 背景とねらい

新規農薬は、公的研究機関で防除効果・安全性・使用方法及び地域適応性等が試験されており、その結果は、農薬登録認可の基礎資料となっている。農業技術センターでは、農薬散布作業の省力化、難防除病害虫や新規発生病害虫に対する有効な薬剤の検索等に主眼を置き、各種の試験を分担、実施するとともに、要防除水準の設定等の研究を行う。得られた成果は病害虫・雑草防除基準へ反映させ、効率的な防除・農薬の安全使用を図る。

2. 成果の内容

平成 22 年度広島県病害虫・雑草防除基準に新規に採用した果樹対象の農薬のうち、主な農薬の効果は次のとおりである。

- 1) スターマイトフロアブルは、カンキツのミカンハダニに対して、対照薬剤（カネマイフロアブル）と同等の防除効果で、無散布と比較して防除効果が高く、実用性が認められた（表 1）。
- 2) カスケード乳剤は、カンキツのサビダニ類に対して、対照薬剤（サンマイト水和剤）と同等の防除効果で、無散布と比較して防除効果が高く、実用性が認められた（表 2）。

3. 利用上の留意点

- 1) 「平成 22 年度広島県病害虫・雑草防除基準」は広島県農業情報ローカルネットワークシステム (<http://www.f-net.naka.hiroshima.jp/>) に掲載されている。
詳細は農業技術センターまたは西部・東部・北部農業技術指導所（病害虫防除チーム）へ問い合わせる。
- 2) 最新の使用方法、使用基準は、独立行政法人・農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム (<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>)」により確認する。

(生産環境研究部・果樹研究部)

4. 具体的データ

表1 スターマイトフロアブルによるミカンハダニ防除効果 (2004年)

供試薬剤	希釈倍数	100葉当り雌成虫数 (頭)					
		散布 前日	散布 3日後	散布 10日後	散布 20日後	散布 31日後	散布 41日後
スターマイトフロアブル	2,000倍	96	0	2	0	0	1
	3,000倍	93	0	1	0	0	1
カネマイトフロアブル (対 照)	1,500倍	93	0	0	1	0	0
無 散 布	—	92	143	213	155	119	395

注1) 品種：興津早生 樹齢14年生 ポット植え 散布9月28日

2) 数値は3区の平均値

表2 カスケード乳剤によるサビダニ類防除効果 (2004年)

供試薬剤	希釈倍数	調査果数 (個)	被害程度別果数				被害果率 (%)	被害度
			無	少	中	多		
カスケード乳剤	2,000倍	150	147	2	1	0	2.5	0.7
	4,000倍	152	149	2	1	0	2.4	0.7
サンマイト水和剤 (対 照)	3,000倍	94	92	2	0	0	2.4	0.2
無 散 布	—	150	141	6	3	0	5.3	1.2

注1) 品種：秋光早生 樹齢15年生 散布10月1日

2) 数値は3区の平均値

3) 被害程度は、少：被害が極めて軽微なもの、中：被害が果皮の1/3までのもの、多：被害が果皮の1/3以上に及ぶもの、により判断